

7 人づくりの時代

今後の「知恵の時代」は、「知恵」が、社会や企業、国そして地球をつかさどる原動力となる。それを支えていくものは、個人の能力や誇り、理性、倫理観などであり、そこでは、勤勉性に加えて創造性や個性が重視されるようになる。

一方、経済的に豊かになった社会において、人と人との連帯感や他者を思いやる心

の希薄化が、地域コミュニティの機能低下や青少年の犯罪、問題行動につながっている。

今後、多様な価値観、能力を持った人材が活躍できる社会とするため、教育を始めあらゆる分野における人づくりを重視し、知識や学力に加え、積極性や協調性を備えた多様な人材育成に取り組む必要がある。

(1) 現状と経緯

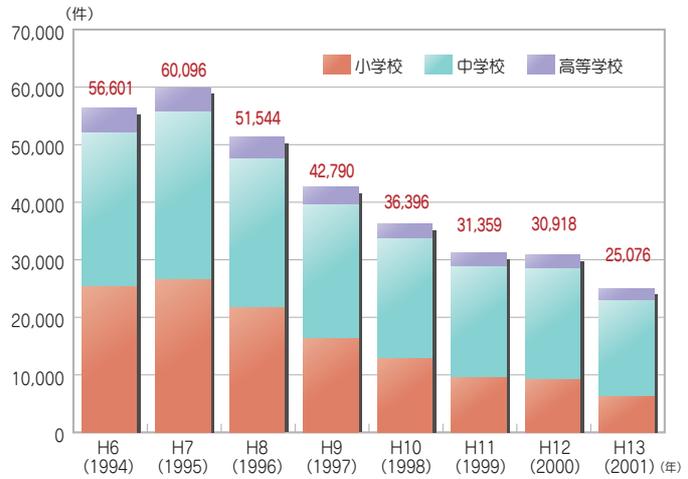
〔「知恵の時代」に求められる人材〕

- 我が国は、機会均等の教育の下、均質で優れた労働力を原動力として、高度経済成長を実現した。そして、世界が「知恵の時代」に向かって動き始めた現在、勤勉性に加えて、個性や独創力が豊かさの源泉となると言われている。
- また、雇用環境は、新卒を中心とした終身雇用・年功序列制から、雇用の流動化、能力主義へと転換を始めており、即戦力や専門的能力が強く求められている。
- しかし、高校生に対する意識調査の結果などでは、将来に夢を抱いたりもっと勉強したいと思う生徒が減少し、さらに、学校以外では勉強しない生徒や勉強を面白く思わない生徒が増加するなど、生きる力や基礎学力の低下が懸念される。
また、職業意識や自立しようとする意欲の乏しい若者が目立つようになっており、フリーターなどが増加している。
- 我が国の高等教育は、多くの場合、「入学すれば卒業できてしまう」状況となっており、大学生にとって「勉強する」という動機付けが希薄になっている。このため、我が国の大学における研究・教育の水準は国際的に見て大きく遅れているとも言われており、世界に通用する人材育成を目指した改革が急務となっている。

(規範意識の低下)

- 一方、全国的な傾向として、「いじめ」や「暴力行為」など子どもや青少年の問題行動の増加や少年犯罪の凶悪化などが指摘され、子どもや青少年の「心」のあり方が大きな社会問題となっている。

いじめの発生件数の推移(全国)



資料：文部科学省「平成13年度の生徒指導上の諸問題の現状について」

(2) 将来の予測**(新たな社会に対応した人づくりの重要性)**

- 世界に通用する「知」を創造することが、我が国の発展にとって更に重要になり、基礎学力の着実な定着が強く求められる。また、独創性や創造性を持った人材や、横並び意識にとらわれることなく、チャレンジ精神に富んだ人材を育成することがますます求められるようになる。
- 環境、福祉、国際化など新たな社会常識に関する教育や、今後必須となる情報活用能力など、新たな分野に関する教育が不可欠になる。

また、我が国や外国の文化・伝統を尊重し、日本人としての誇りと*アイデンティティを持って国際的視野に立ち行動できる人、社会貢献や公共の福祉と個人の利益との調和を考え個人の義務や責任を自覚して行動できる人などを育てていくことが必要になる。

(青少年や子どもたちの育成環境)

- 家庭環境の多様化、少子化による兄弟数の減少、規範意識の希薄な青少年が親になることによる家庭の教育力の低下、地域コミュニティの結びつきが弱まることによる地域の教育力の低下など、子どもや青少年をとりまく社会環境や家庭環境は、今後悪化していくことも予想される。

このため、家庭や地域社会、学校におけるモラル教育や基礎教育の重要性がますます高まることが見込まれる。

(3) 今後の課題**(新たな社会に対応した人づくり)**

- 今後、社会や企業が求める人材を養成するために、後期中等教育のあり方の見直しや職業人養成のための大学教育の抜本的な改革、大学院大学といった高度で実践的な教育機関の整備、さらには、あらゆる世代の人たちが、常に新しい知恵や技能を求めて教育を受けられる社会システムづくりなどが求められている。

一方で、人材育成と並んで高等教育機関のもう一つの重要な役割である研究、すなわち「知」の創造については、社会への還元性を明確化しながら、世界レベルの「知」の集積を目指して、大胆に取り組んでいく必要がある。

【アイデンティティ (identity)】自己同一性。本人であること (の証明)。

○ 世界に通用する人材育成への取組が求められている。そのため、まずは学力向上に加え、外国語教育、情報教育等を充実していく必要がある。さらに、意欲と能力のある者が適切な教育を受けられる教育制度の下で、世界に通用する高等教育機関において知識集約型産業等をリードしていく人材の育成にも取り組む必要がある。

○ また、学歴偏重の風潮や画一的な入学試験が、学ぶ目的を「いい学校に入り、いい会社に就職する」、「入学試験で高得点を得る」という単線的、打算的なものとしてしまうなど、教育全般に実質的に大きな影響を与えている。

この結果、独創性や多彩な才能、問題解決能力などの伸長を難しくしているとも言われており、今後求められる創造力豊かな人材を育成していくためには、受験といった直接的利益のための知識の集積ではない、「知」そのものへのあこがれを子どもたちに芽生えさせていくことが大切である。

○ 多様な価値観や多様な能力を持った人材が、適切に評価され、活躍の場を得られる社会としていくためには、変化し続ける産業構造、就業構造に柔軟に対応できる教育制度の確立が重要である。^{*}複線型の教育制度や^{*}キャリアアップのための再教育制度など、一度失敗しても再度チャレンジできる^{*}リカレント型の社会を実現するとともに、知識や学力だけでなく積極性や協調性を備えた多様な人材育成に取り組んでいく必要がある。

また、子どものころから他者との横並びを気にし、突出することを嫌う意識が、自分と違う者を排除する「いじめ」を招いたり、夢に挑戦したり独創的なアイデアを創出することを阻んでいる面もあり、創造性や多様性を認める意識の醸成が重要である。

(青少年の「心」のあり方)

○ 青少年の「心」のあり方については、家庭と学校、地域が協力して心の教育に取り組む必要がある。特に、犯罪件数や非行件数は依然として少なくなく、防犯や地域安全確保対策とともに、地域コミュニティの再生の一環として心の教育に取り組む必要がある。

(国を挙げた教育、人づくりの取組)

○ 大きな時代の転換期を切り拓いていくときは、国を挙げて教育、人づくりに取り組んでいくことが求められている。

「知恵の時代」における最も重要な資源は「人」そのものであり、これからの社会を支え、豊かな暮らしを築いていくための人づくりに最大限の努力をしていくことが求められている。

【複線型の教育制度】 生徒の志望によって複数の学校の中から選択が可能な制度。

【キャリアアップ (career up)】 経歴を高くすること。上向きの転職。高度な専門職や管理職への転身。地位の高い高給の職に自分を売り込んでいくこと。

【リカレント型の社会】 リカレントは、「循環する」ことを意味し、一度社会に出た者の学校への再入学を保障し、学校教育と社会教育が循環的にシステム化された社会のこと。